

「指先 HbA1c 検査」の薬局店頭実施で 13%に糖尿病を発見

糖尿病診断アクセス革命事務局(代表:矢作直也・筑波大学大学院内分泌代謝・糖尿病内科准教授)は、2010年10月より東京都足立区内の9カ所の薬局・ドラッグストア店頭で指先 HbA1c 測定による糖尿病スクリーニングを実施するという我が国初の画期的なプロジェクトを続けてきました。本日、プロジェクト開始1周年を迎えるに当たり、1年間の成績を公表します。

潜在患者も含めたわが国の糖尿病人口は1000万人を超えており、その対策は急務となっており、初期には自覚症状に乏しい糖尿病の早期診断・早期治療のためには定期的な血液検査が特に重要です。そうした検査の機会を薬局・ドラッグストアで提供し、糖尿病の早期診断・早期治療へ繋げていく試みが「糖尿病診断アクセス革命」です。

「糖尿病診断アクセス革命」の最初の1年間の実績は以下の通りです:

■2010年10月～2011年9月の1年間に「糖尿病診断アクセス革命」プロジェクト参加薬局(9薬局)で指先 HbA1c 検査を受けた人は538名(男性233名、女性305名;糖尿病治療中の人は対象外)。

■538名のうち、糖尿病が強く疑われた人(HbA1c:6.1以上)は約13%、糖尿病予備群と疑われた人(HbA1c:5.6～6.0)は約16%。併せて3割近くに対し、糖尿病またはその予備群の疑いで医療機関へ受診勧奨。

■538名のうち、男性では約3人に1人、女性では約2人に1人が定期的な健康診断を受けておらず、「糖尿病診断アクセス革命」の提供する「新たな検査の場」が生かされました。

■特定健診(メタボ健診)の対象年齢外である40歳未満の男性でも、約9%に糖尿病の疑い(HbA1c:6.1以上)があり、より早期に糖尿病のスクリーニングの機会を提供する必要性が示されました。

【調査研究概要】

対象:指先 HbA1c 検査希望者(糖尿病治療中の人を除く)538名

方法:プロジェクト参加薬局店頭での指先検査とアンケート記入

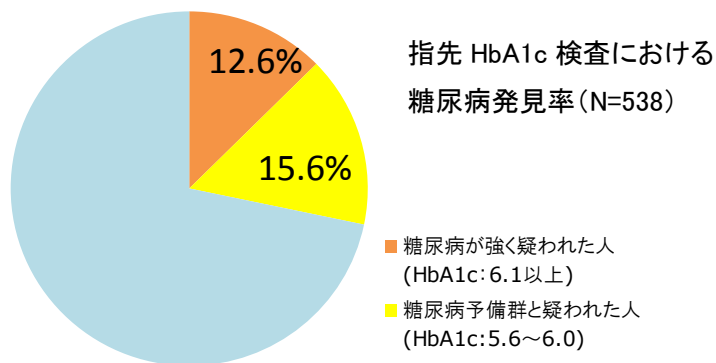
期間:2010年10月12日～2011年9月30日

1) HbA1c 測定結果

東京都足立区内のプロジェクト参加の薬局・ドラッグストア(9カ所)で2010年10月から2011年9月までの1年間に希望者(糖尿病治療中の人は対象外)に測定したHbA1cの結果は、以下の通りでした:

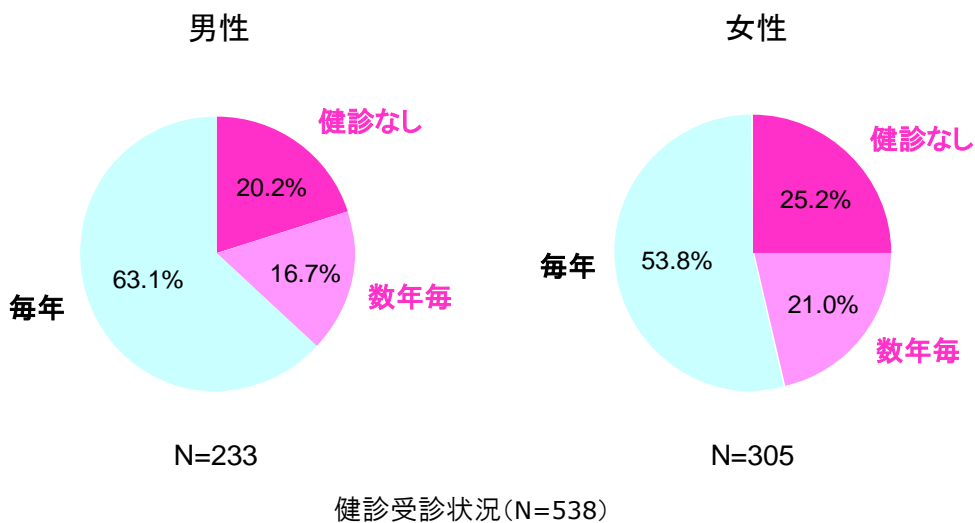
- ・糖尿病が強く疑われた人(HbA1c:6.1以上)は約13%(68名)
- ・糖尿病予備群と疑われた人(HbA1c:5.6~6.0)は約16%(84名)

併せて3割近い人が糖尿病またはその予備群の疑いで医療機関へ受診勧奨となりました。



2) 健診受診状況

薬局でのHbA1c検査実施者に健診受診状況を尋ねたところ、男性では約3人に1人、女性では約2人に1人は、定期的な健康診断を受けておらず、「糖尿病診断アクセス革命」の提供する「新たな検査の場」が貴重な機会となっていることがわかりました。



3) 40 歳未満の利用者の状況

特定健診(メタボ健診)の対象年齢外である 40 歳未満の年齢層に着目してみたところ、特に男性では約 9%(66 名中 6 名)に糖尿病の疑い(HbA1c:6.1 以上)があり、より早期に糖尿病のスクリーニングの機会を提供する必要性が示されました。

■糖尿病診断アクセス革命について

糖尿病診断アクセス革命は、最新医療技術である「指先微量採血による HbA1c 測定」を用いて血液検査へのハードルを下げ、広く検査の機会を提供することで、未発見・未治療の糖尿病の患者さんや糖尿病予備群の方々をすくい上げ、最終的にはわが国の糖尿病を減らすことをめざす画期的なプロジェクトです。筑波大学・東京大学と足立区薬剤師会・医師会・NPO 法人 ADMS の共同研究プロジェクトとして 2010 年 10 月に足立区内の 9 薬局でスタートし、活動半径を徐々に広げています。

公式サイト: <http://a1c.umin.jp>

【本調査に関するお問い合わせ先】

糖尿病診断アクセス革命事務局

筑波大学大学院人間総合科学研究科内分泌代謝・糖尿病内科

〒305-8575 つくば市天王台 1-1-1

TEL 029-853-3053

代表者: 矢作 直也(やはぎ・なおや)